

2025年度 所員業績リスト

■氏家悠太

<論文発表>

1. Ujiie, Y., & Takahashi, K. (2026). The Effect of Mask Wearing on Lip-Reading and Audiovisual Speech Perception. *Multisensory Research*.  
<https://doi.org/10.1163/22134808-bja10182>
2. Suzuki, Ujiie, & Takahashi. (2025). The importance of the eyes and whole face presentation in the Flashed Face Distortion Effect. *Japanese Academy of Facial Studies*, 25(1), 60-68. <https://doi.org/10.11459/kaogaku.25.1.60>.
3. Itoi, C., Ujiie, Y., & Kashino, M. (2025). Reliability and validity of the Japanese version of the Misophonia Questionnaire (MQ). *Journal of Psychiatric Research*, 188, 133-139. <https://doi.org/10.1016/j.jpsychires.2025.05.040>
4. Ogiso, A., Inoue, T., Kitajima, T., Ujiie, Y., Oto, Y., & Sakuta, R. (2025). Development and validation of the internet gaming disorder scale-9 short form Japanese version for children for early screening in elementary school children. *Frontiers in Child and Adolescent Psychiatry*, 4. <https://doi.org/10.3389/frcha.2025.1622000>

<学会発表>

1. 氏家悠太・高橋康介. (2025) 話者属性が視聴覚統合判断および統合表象に与える影響 — McGurk 効果を用いた CIMS モデルに基づく検討—, 2025 年度日本認知科学会第 42 回大会, 東京, 2025 年 9 月.
2. 高橋康介・氏家悠太 (2025) 離郷を支える心的特性在留外国人と長期フィールドワーカーの比較, 本心理学会第 89 回大会, 仙台, 一般研究発表, 2025 年 9 月

■江川隆男

<著作>

江川隆男『哲学は何ではないのか』、ちくま新書、2025 年 10 月、全 360 頁

<論文>

江川隆男「〈内在性の問題〉への前哨——ドゥルーズと多孔質的思考について」、『思想』、2025 年 6 月号 (no.1214) 所収、岩波書店、106-125 頁

江川隆男「ドゥルーズ問題」、『ドゥルーズ革命』所収、月曜社、2025年10月、46-72頁

<シンポジウム>

江川隆男「いかにして内在論を形成するか」、押見まり、平田公威、合田正人（司会）、シンポジウム「ドゥルーズ生誕100年——内在と超越」、日仏哲学会2025年秋季大会、2025年9月13日、場所 立教大学（池袋）

■大石幸二

<論文>（降順：最新が上位）

○大石幸二（2026）. インクルーシブ保育を担う保育者の専門性と省察をめぐる近年の研究動向 立教大学臨床心理学研究, 19, 4-15. (2026年3月20日発行) \*査読あり

○大石幸二・竹森亜美・渡邊孝継・和田恵・木下愛・荻野梨紗子（2025）. 自閉スペクトラム症児における身体模倣時の困難感と疲労感 人間関係学研究, 30(1), 15-26. (2025年12月28日発行) \*査読あり

○松川幹司・竹森亜美・大石幸二（2025）. 漢字書字に困難を示す小学校児童の教育的支援に関する国内研究の動向—書字運動・運動処理の能力に着目した研究は、その後増えているか— 言語文化学会論集, 62, 277-292. (2025年8月31日発行) \*査読あり

○大石幸二・荻野梨紗子・屋嘉部優花・坂本真季（2025）. 注意欠如多動症児の行動抑制を高めるような指導に関するわが国の研究動向 言語文化学会論集, 62, 263-276. (2025年8月31日発行) \*査読あり

○竹森亜美・大石幸二（2025）. 高機能自閉スペクトラム症児における身体感覚の主観的評価に関する一考察—動作模倣課題を用いた介入の効果検証— 星美学園短期大学研究論叢, 57, 17-30. (2025年2月28日発行) \*査読なし

<学会発表>（降順：最新が上位）

○大石幸二（2025）. 教育講演6：学校現場で使えるABA. 第25回日本認知療法・認知行動療法学会（早稲田大学・サンシャインシティ会議室）, EL-6.

○坂本真季・渡邊孝継・竹森亜美・大石幸二（2025）. 自閉スペクトラム症児における実行機能と感情推測の関連性—抑制機能に着目した社会的情報処理プログラム検討に向けて—. 日本特殊教育学会第63回大会（茨城大学：水戸市民会館）, P9-56.

○渡邊孝継・坂本真季・大石幸二（2025）. 自閉スペクトラム症児の言語コミュニケーション促

進による慢性的な対人ストレスに及ぼす影響—唾液コルチゾール濃度を指標とした検討—。日本特殊教育学会第 63 回大会（茨城大学：水戸市民会館），P4-57.

○中内麻美・榎本拓哉・野口和也・太田研・大石幸二（2025）. インクルーシブ保育の実践からともに育ち合う保育環境づくりを探る（2）. 日本特殊教育学会第 63 回大会（茨城大学：水戸市民会館），SY4-6.

○渡邊孝継・坂本真季・和田恵・野口和也・大石幸二（2025）. 自閉スペクトラム症児への社会刺激を手がかりとしたコミュニケーション支援. 日本特殊教育学会第 63 回大会（茨城大学：水戸市民会館），SY2-9.

#### ■大江由香

<論文発表>（査読あり）

大江由香（2026）. 性非行リスクアセスメントツール J-SOAP-II の児童福祉領域における臨床的有用性の理論的検討 青少年問題, 4(1), 3-24. <https://doi.org/10.60463/jjys.4.1.3>

<著作>

大江由香編（2025）. 犯罪者が人生を物語ることの意味：犯罪心理学の臨床と研究から見えてきた立ち直りのヒント 誠信書房 2025 年 10 月 15 日 全 195 頁 (ISBN: 4414417198)

<学会発表>

大江由香・石川祐樹（2025）. 性犯罪者の解離と介入への反応性との関連：少数サンプルによるパイロット研究 日本心理学会第 89 回大会 2025 年 9 月

大江由香（2025）. 子どもに対する性犯罪の予防対策に関する一考察 日本犯罪心理学会第 63 回大会 2025 年 8 月

<シンポジウム・講演会等>

嶋田洋徳・野村和孝・西中宏吏・緒方慶三郎・浅見祐香・田中佑樹・大江由香（2025）. シンポジウム「再犯防止に対する認知的アプローチ」第 25 回認知療法・認知行動療法学会 2025 年 11 月

柴田守・大江由香（2025）. 立教大学現代心理学部心理芸術人文学研究所主催公開講義「体感する学び 少年非行の法と心理」2025 年 10 月

渡邊和美・宮園久栄・柑本美和・大嶋栄子・堀田大人・大江由香・小島まな美（2025）. 公募シンポジウム「女性の再犯防止のために司法と福祉はどう連携していくのか」日本心理学会第 89 回大会 2025 年 9 月

**大江由香**・平野貴子・糸井岳史・越智啓太 (2025). 公募シンポジウム「犯罪者が人生を物語ること：犯罪者が人生を物語ること－臨床と研究から立ち直りのヒントは見つかるかー」日本犯罪心理学会第63回大会 2025年8月

<書評>

**大江由香** (2025). 書評『『殺された側』から『殺した側』へ、こころを伝えるということ』(藤井誠二著) 週間読書人 2026年1月

<その他>

法務省矯正局 刑務所における改善指導スーパービジョン(性犯罪) 2025年8月 - 現在

総務省行政評価局 法務省との実証的共同研究に対する助言指導 2025年4月 - 2026年2月

人事院 2026年度法務省専門職員(人間科学)採用試験 試験専門委員 2025年 - 2026年

■小口孝司

<学術論文> (査読有)

1. Nakajima, M. & Oguchi, T. (2025). Japanese perspectives on transformative travel experience: humility, limitations, and dark tourism. *Frontiers in Psychology*, 16:1592027. [WEB](#)
2. Miyakawa, E. & Oguchi, T. (2026). Enhancing well-being through recovery experiences and savoring: comparing leisure travel, visiting friends and relatives, and daily leisure in Japan. *Journal of Travel & Tourism Marketing*, 43 (1), 58-72.

<国際学会発表> (査読有)

1. Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2025). Tourism's Psychological Benefits Across Generations. *30th Asia Pacific Tourism Association Annual Conference*. Busan, Korea.
2. Nakajima, M., & Oguchi, T. (2025). Transformative Travel and Self-focused Attention: A Cross-sectional Study. *30th Asia Pacific Tourism Association Annual Conference*. Busan, Korea.
3. Liu, M., & Oguchi, T. (2025). Novelty Seeking as a State, not a Trait: Stress, Motivation, and Travel Intentions. *Impact*. HongKong, China.

<国内学会発表> (査読無)

1. 小口孝司 (2025). 歩き旅の心理学長距離歩行による心の変容 日本心理学会シンポジウム 日本心理学会第 89 回大会 (9 月 5 日, 東北学院大学)
2. 長井俊樹・小口孝司 (2025). 腕の屈伸はネット・ショッピングに影響を及ぼすのか? 日本心理学会第 89 回大会 (9 月 6 日, 東北学院大学)
3. Liu, M. & Oguchi, T. (2025). Stress and Gender Determine Travel Styles 日本心理学会第 89 回大会 (9 月 6 日, 東北学院大学)
4. 川久保惇・小口孝司 (2025). 旅行を「味わう」力: セイバリング傾向と旅行の心理的機能 日本心理学会第 89 回大会 (2025 月 7 日, 東北学院大学)

<書籍>

1. 小口孝司 (2025). 観光心理学”って何? 「旅」が個人の能力を高める? 社会をも活性化する「旅」の心理学 大学学部研究会講義ダイジェスト 2025 年度版 182-183. 東進本部

<その他> (査読無)

1. 小口孝司 (2025). ホースセラピーの心理学的効果とは何か 特定非営利活動法人 EPO (編) ホースウエルネスプログラム ホースウエルネスツーリズム編 pp. 5 - 6. Horse Ship Society
2. 小口孝司 (2026). アクセシブル・ツーリズムを東京の発展にどう繋げるのか? アクセシブル・ツーリズム 推進シンポジウム 主催 東京都産業労働局

■温文

<論文発表> (査読あり)

- Suzuishi, Y., Shinada, S., Chang, A.Y-C., & Wen, W. (2026). The effects of prediction errors and movement speed on pseudo-haptic sensations. *Frontiers in Psychology*, 30, 1774826. doi: 10.3389/fpsyg.2026.1774826
- Chang, A. C.-Y. & Wen., W. (2026). Bayesian integration in sense of agency: Understanding self-attribution and individual differences. *Cognitive Computation*, 18, 9. doi: 10.1007/s12559-025-10542-x
- Takada, K., Wen, W., Kasahara, S., & Froese, T. (2026). The role of regularity detection and prediction in the exploration of sense of agency. *Consciousness and Cognition*, 138, 103980. doi: 10.1016/j.concog.2025.103980

Wen, W., Aktas, H., Chang, A. C.-Y., Mei, J., Suzuishi, Y., Nagai, Y., & Nobusako, S. (2025). Action plan diversity in children during control exploration: Link between action and sense of agency. *Cognitive Computation*, 17, 115. doi: 10.1007/s12559-025-10475-5

<学会発表>

馬 文碩, Acer Chang, 鈴木 陽介, 温 文: “視線の探索パターンからみる運動主体感”. 第44回基礎心理学大会, November, 2025.

艾 静怡, 鈴木 陽介, 温 文: “人間は本当に集団的知性があるのか?—協同作業におけるメタ認知の役割”, 第44回基礎心理学大会, November, 2025.

■加藤千恵

<共訳>

任継愈主編 松下道信監訳 加藤千恵・高橋忠彦・長谷部英一・森由利亜、山田俊訳 (2026). 『中国道教史』 汲古書院 2026年2月27日 第4章・第5章 (全1129頁中162頁～341頁) 担当

<学会発表>

加藤千恵 (2025). 论《周易参同契》の流行与鉛汞说形成的关系 全真道与中国社会国際學術研討会 2025年7月11日—14日 於山東大学 (山東省日照市)

<報告記>

加藤千恵 (2025). 「全真道与中国社会国際學術研討会」参加報告記 『東方宗教』第146号 2025年11月10日

<講演>

加藤千恵 (2025). 『老子』のすすめる赤ん坊のような生き方 大東文化大学東洋研究所「東洋学へのいざない」講演会 2025年11月10日 於大東文化大学

<講演録>

加藤千恵 (2026). 『老子』のすすめる赤ん坊のような生き方 『東洋学へのいざない 2025』 大東文化大学東洋研究所 2026年3月30日 全31頁中22～25頁

■加藤典子

<論文発表>

藤里紘子, 宮前光宏, 加藤典子, 金子響介, 竹林由武, 伊藤正哉, 堀越勝 (2025). 改訂子ども不安と抑うつ尺度 (Revised Children's Anxiety and Depression Scale) 日本語版の作成—Development of the Japanese Version of the Revised Children's Anxiety and

Depression Scale. 認知療法研究 18(2), 171-181.

<学会発表>

伊藤正哉, 藤里紘子, 加藤典子, 金子響介 (2025). うつや不安など幅広い対象に適用できる認知行動療法を学ぶ: 感情症に対する診断横断的な治療のための統一プロトコル. 日本心理学会第 89 回大会 チュートリアルワークショップ.

加藤典子 (2025). 集団認知行動療法のスキルアップ 集団認知行動療法における集団凝集性と統一プロトコルによる集団認知行動療法. 第 25 回日本認知療法・認知行動療法学会 シンポジウム.

金子響介, 藤里紘子, 羽鳥乃路, 高野かさね, 船木省吾, 加藤典子, 小田原幸, 伊藤正哉 (2025). 感情症に対する診断横断的な治療のための統一プロトコル (UP): 実臨床における導入・実践からアダプテーションの可能性を探る. 第 25 回日本認知療法・認知行動療法学会 自主企画シンポジウム.

伊藤 正哉, 加藤 典子 (2025). 感情症への診断を越えた治療のための統一プロトコル (UP) —これまでの発展とこれからの精神科医療現場における活用可能性—. 日本デイケア学会 第 30 回記念年次大会 教育講演.

加藤 典子 (2025). 統一プロトコルによる集団認知行動療法とリワーク支援における多職種連携. 第 26 回日精診チーム医療・地域リハビリテーション研修会静岡大会 シンポジウム.

#### ■金子彩子

<学会発表>

金子彩子 (2025). 聴覚時間処理と発話速度の認識との関係性の検討, 日本基礎心理学会第 44 回大会, 2025 年 11 月 30 日.

#### ■砂連尾理

<公演・パフォーマンス>

① 《とつとつダンス》パフォーマンス公演/マレーシア・ジョージタウン フェスティバル 2025  
構成・演出: 砂連尾理

出演: 砂連尾理 (ダンサー・振付家)、神村 恵 (ダンサー・振付家)、Chloe Tan (ダンサー)、Silver Yee (ダンサー)、Kamal Ssbran (音楽家)、Urut-urut (Research workshop/Okui Lala, Dr. Cecilia Chan, John O' Neil, Ms. Tan)

日時: 2025 年 8 月 6 日 (水) 20:00 開演、7 日 (木) 20:00 開演

会場：Hin Bus Depot (31A, Jalan Gurdwara, 10300 George Town, Pulau Pinang, Malaysia)  
主催：文化庁、一般社団法人 torindo  
協力：Elder Care Centre, Bagan Specialist Centre  
Georgetown Festival 公式プログラム

② 多和田葉子複数の私 Vol.8 演劇公演『さくらのそのにつぼん』

日時：2025年11月2日(日)15時開演、3日(月・祝)15時開演

作：多和田葉子

演出：川口智子

振付：砂連尾理

出演：青山健二、伊豆半島からの踊る旅人、今井滉、内田颯太、小川空、くぼちゃん、菅原かなぶん、鈴木睦海、棚田真理子、なお、成松こだま、HAKO、Hurry、春名蓮、やまちゃん

会場：FSX ホール (くにたち市民芸術小ホール)

助成：芸術文化振興基金

主催：(公財)くにたち文化・スポーツ振興財団

東京舞台芸術祭 2025 Open Call Program 補助対象事業

③ 動きと表現・時々ミングルーらいおんはーと佐久穂×さくほミングル 佐久穂町冬まつりパフォーマンス

出演：大村麻弥(音楽)、砂連尾理(ダンス)、竹田栄次(ダンス)、らいおんはーと佐久穂職員、利用者

日時：2026年2月15日11:00~12:00

会場：佐久穂町公民館

主催：さくほミングル

支援：信州アーツカウンシル、文化庁令和7年度文化芸術創造拠点形成事業

<ワークショップ>

① アートト・スクール「ダンスと身体とケアについて」

講師：砂連尾理

日時：2025年6月29日(日)14:00~16:00

会場：アートト

主催：一般社団法人アートト

助成：公益財団法人小笠原敏晶遺年財団

② とつとつダンスワークショップ&ミーティング in Singapore

講師：砂連尾理、神村恵

日時：2025年7月29日~8月2日

・7月30日、8月1日 高齢者向け 会場：KWSH Ageing Centre

・7月29日～8月2日 現地アーティストとツールキット制作に向けたミーティング 会場：  
Aliwal Arts Centre  
主催：文化庁、一般社団法人 torindo

③ 釜ヶ崎芸術大学 2025 「釜音ことばとからだ-限界突破のあいまに-」  
講師：砂連尾理（振付家）、上田假奈代（詩人）  
日時：2025年9月8日 14:00～16:00  
会場：あいりん臨時夜間緊急避難所（シェルター）2F 居場所  
主催：特定非営利活動法人 こえとことばとこころの部屋（ココルーム）  
共催：令和7年度大学における芸術家等育成事業  
大阪公立大学「EJ ART」人材育成プログラム

④ nosmosis research 2025 ダンス&ダイアログ WS  
講師：砂連尾理、  
日時：2025年12月19日、26日、2026年1月9日 19時～21時  
会場：SHIBAURA HOUSE 5F  
主催：nosmosis 実行委員会  
助成：アーツカウンシル東京 [芸術文化による社会支援助成]  
（公財）港区スポーツふれあい文化健康財団 [Kiss ポート財団]  
協力：SHIBAURA HOUSE、ゲート・インスティテュート東京

<とつとつダンス ツールキット公開イベント>

TOTSU TOTSU DANCE: A New modality in dementia care

登壇者：砂連尾理、神村恵（ダンサー・振付家）、森真理子（torindo）、Michael Cheng（drama practitioner/educator）、Woo Yen Yen（ラサール芸術大学准教授、映画監督）

日時：2026年3月14日

会場：Flexible Performance Space

Block F Level 1 #F102,

LASALLE College of the Arts, 1 McNally Street (Singapore)

主催：MA Arts Pedagogy and Practice and MA Music Therapy programmes、LASALLE College of the Arts、University of the Arts Singapore, with Passion & Purpose

共催：Dementia Singapore

助成：国際交流基金

<トークイベント>

だれもが文化でつながるオータムセッション 2025 「居場所とわたし」

セッション4 居場所のを見つけ方

登壇者：砂連尾理、松本雅隆（ロバの音楽座主宰）、齋藤紘良（作曲家、しぜんの国保育園 理事長）

日時：2025年10月22日 15時半～17時

会場：自由学園明日館 講堂

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

<報告会+トーク>

“ことば”と“からだ”～とつとつダンス 2025年度活動報告会

日時：2025年1月24日（土）、25日（日）15:00～17:00

会場：水性-suisei-

・1月24日 《とつとつダンス》の“ことば”を考える

ワークショップファシリテーター：砂連尾理（ダンサー・振付家）、大迫健司（ダンサー・俳優）

対話の場の参加ティスト：砂連尾理（ダンサー・振付家）、大迫健司（ダンサー・俳優）、神村恵（ダンサー・振付家）、石田智哉（映画監督）

・1月25日 《とつとつダンス》の“からだ”を考える

トーク：砂連尾理（ダンサー・振付家）、湯浅永麻（ダンサー・振付家）

主催：文化庁、一般社団法人 torindo

企画制作：一般社団法人 torindo

協力：水性

※とつとつダンス公演、ワークショップ、報告会+トーク事業は全て文化庁「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」の『日本⇄アジア太平洋 国際交流事業～認知症者・高齢者と介護者をつくる「アートのような、ケアのような 《とつとつダンス》」』の委託事業。

<書籍・寄稿>

- ① 砂連尾理「ぐるぐるまわってみることに触れて」『はじまりの美術館・記録集』（社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館） 2025年8月1日、pp-45~46
- ② 砂連尾理「『介護×〇〇』で生まれるケア」『おはよう 21』2026年1月号（中央法規出版） 2025年12月1日、pp-92~93
- ③ 砂連尾理「私が映画を見るということ」『群像 CINEMA』群像 2026年1月号増刊（講談社） 2024年12月5日、pp-86~88

■白井述

<論文>

**Shirai, N.**, Kawai, M., Otsuka, Y., Kobayashi, M., & Tanaka, T. (2025). Infants' visual preference for upright faces during the COVID-19 pandemic in Japan. *Infancy*, 30(6). 1-10. <https://doi.org/10.1111/infa.70052> (査読あり)

Imura, T., Sawayama, M., **Shirai, N.**, Tomonaga, M., & Nishida, S. (2026). Development of Detection Sensitivity to Material Properties in School-Age Children. *Scientific Reports*, 16, 11062, 1-9. <https://doi.org/10.1038/s41598-026-37801-7> (査読あり)

Yamanaka, N., Kobayashi, M., & **Shirai, N.** (印刷中). Characteristics of boundary extension in 7- to 8-month-old infants. *The Japanese Journal of Psychonomic Science*. <https://doi.org/10.14947/psychono.44.15> (査読あり)

<学会発表>

江口萌々・浅見徳哉・西野智博・山中七菜子・**白井述**・宮脇陽一 (2025) 深層学習モデルによる合成した階層的画像特徴量に対する乳幼児の注視特性. 第48回日本神経科学大会, 朱鷺メッセ, 2025年7月24日~27日

**白井述** (2025) 拡張現実技術による視覚情報提示と子どもの行動: 大会企画シンポジウム (1) XR (クロスリアリティ) 環境のなかでの乳幼児の発達を考える, 日本赤ちゃん学会第25回学術集会, 相模女子大学, 2025年8月21日

**白井述** (2025) 指定討論. 公募シンポジウム SS-015 色経験の構造, 日本心理学会第89回大会, 東北学院大学五橋キャンパス, 2025年9月5~7日

Eguchi, M., Asaimi, N., Nishino, T., Yamanaka, N., **Shirai, N.**, & Miyawaki, Y. (2025). Infant gaze toward lower- and higher-order visual features synthesized by deep convolutional neural network. *Neuroscience 2025*, San Diego. Nov. 15-19 2025.

Yamanaka, N., Kobayashi, M., & **Shirai, N.** (2025). Characteristic of boundary extension in 7- to 8-month-old infants. *47th European Conference on Visual Perception*, Mainz, Germany. Aug. 24-28 2025

Takashima, R., Yamanaka, N., & **Shirai, N.** (2025). Discrimination of Mooney faces in infancy. *47th European Conference on Visual Perception*, Mainz, Germany. Aug. 24-28 2025

Otsuka, Y., Nakashima, Y., & **Shirai, N.** (2025). Center-Surround Suppression of Motion

Perception in Children. *47th European Conference on Visual Perception*, Mainz, Germany.  
Aug. 24-28 2025

高島琉登・山中七菜子・小林恵・白井述 (2025) 乳児期における Mooney face による個人識別,  
*日本基礎心理学会第44回大会*, 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター, 2025年11月28~11  
月30日

山中七菜子・高島琉登・小林恵・白井述 (2025) 幼児期から成人期における Mooney face 知覚の  
発達的变化, *日本基礎心理学会第44回大会*, 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター, 2025年  
11月28~11月30日

中山晏寛・吳詩源・白井述・伊村知子・田村秀希・中内茂樹・南 哲人 (2025) 瞳孔計測によるグ  
レア錯視の発達の特性の検証. *日本視覚学会2025年夏季大会*, 岩手県教育会館, 2025年9月10  
日~12日

#### ■ 滝浪佑紀

<論文>

滝浪佑紀 「認めることとメロドラマ——小津安二郎の『東京物語』について」『立教映像身体学  
研究』13号、2026年、49-69頁。

<書評>

滝浪佑紀 「アフェクティブに生きなおす——『間隙を思考する——グリッチ・コミュニズムの方  
へ』について」『立教映像身体学研究』13号、2026年、84-88頁。

<翻訳>

ミリアム・ブラトゥ・ハンセン『映画と経験——クラカウアー、ベンヤミン、アドルノ』新装版、  
竹峰義和、滝浪佑紀訳、法政大学出版社、2025年（初版は2017年）。

<新聞書評>

滝浪佑紀、井上秀樹著『日活向島撮影所』、『陸奥新報』2025年9月13日、『北羽新報』2025年  
9月21日、『四国新聞』2025年9月21日、『静岡新聞』2025年9月28日。

#### ■ 都築誉史

<論文>（査読あり）

都築 誉史（印刷中）. 多属性-多肢選択意思決定におけるデコイ効果研究の展望——誘引効果,  
妥協効果, 類似性効果を中核とした検討—— 心理学評論

<学会発表>

都築 誉史・武田 裕司 (2025). 多属性-多肢選択意思決定における誘引効果と妥協効果の相互作用——2種類デコイ設定による実験的検討—— 行動経済学会第19回大会予稿集 (早稲田大学)

都築 誉史 (印刷中). 誘引デコイは妥協効果を促進するか?——2属性4肢選択実験における遮断効果の計算論的モデリング—— 日本心理学会第89回大会 (東洋大学)

■中島実穂

<論文発表> (査読あり)

1. Nakajima, M. & Kinjo, H. (2025). Acceptance of Aging among Japanese Adults aged 20-89. *Cogent Psychology*, 12 (1), 2537856.  
<https://doi.org/10.1080/23311908.2025.2537856>
2. Nakajima, M. & Oguchi, T. (2025). Japanese Perspectives on Transformative Travel Experience: Humility, Limitations, and Dark Tourism. *Frontiers in Psychology*, 16, 1592027. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2025.1592027>
3. 中島実穂 (2025). 母親の育児ストレスに対するフォーマル・インフォーマルサポートの役割. ストレス科学研究, Advance publication,  
<https://doi.org/10.5058/stresskagakukenkyu.2025003>

<学会発表>

1. ONakajima, M. & Oguchi, T. Transformative Travel and Self-focused Attention: A Cross-sectional Study. Asia Pacific Tourism Association 2025, 8.1 Consumer Behavior & Others, Busan, Korea. July, 2025)
2. ○中島実穂・児玉茉奈美. 「児童期マルトリートメント経験者による実親介護：その心理的葛藤と保護要因に関する質的研究」 『日本心理学会第89回大会,』, 2B-086-P0, 宮城, 2025年9月.
3. ○中島実穂・児玉茉奈美. 「児童期マルトリートメント経験者の実親介護：心理的葛藤と保護要因に関する追加データを用いた再分析」 『日本発達心理学会第37回大会,』, 4PM2-PS51, 福岡, 2026年3月.

■原島大輔

<論文（査読なし）>

原島大輔（2025）「影の媒介」, Goki Muramoto, *Beautiful Medium*, 38-51.

<学会発表>

原島大輔（2025）「テクノロジーの終わりと技術の課題」, 日本記号学会第45回大会, 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS].

原島大輔（2025）「人工知能は時間をつくるか」, 2025年度人工知能学会全国大会（第39回）, 大阪国際会議場.

<翻訳>

ユク・ホイ（2025）『ポストヨーロッパ』（原島大輔訳）, 岩波書店, 244頁.

<講演>

藤幡正樹, 原島大輔（ゲスト）（2026）「技術とワザの違い」, 講座シリーズ「アート&テクノロジーの概念構築」第3回, 藝術と技術の対話（DAT）, TOKYO NODE LAB.

Daisuke Harashima（2025）“Tempogenesis”, AI Ethics: Challenges for the Construction of New Normative Frameworks, Hotel Chinzanso Tokyo.

アレクサンドル・モナン, ドミニク・チェン（登壇者）, 原島大輔（進行）.（2025）「科学を超える“科学”へ」第11回「哲学の夕べ」—Agir pur le vivant 生きものとともに, 東京日仏学院.

<取材・報道>

松島倫明, 原島大輔（ゲスト）（2026）「“テクノロジー”と実存的に向き合うための必読書 | ユク・ホイ最新刊『ポストヨーロッパ』徹底解題」『WIRED.jp』ウェブサイト.

松島倫明, 原島大輔（ゲスト）（2025）「技術哲学の注目書、ユク・ホイ『ポストヨーロッパ』を徹底解題！」『WIRED』日本版ポッドキャスト.

ユク・ホイ, 原島大輔（聞き手）（2026）「哲学者ユク・ホイが語る、ポストグローバル時代におけるテクノロジー」『DISTANCE. zine 01 〈WE〉の時代のテクノロジー』NTT出版, 77-92.

原島大輔, 伊勢康平（2025）「〈新たな「宇宙技芸」を発明するために〉ユク・ホイ著『ポストヨーロッパ』（岩波書店）刊行を機に」『週刊読書人』2025年11月21日号.

七沢智樹, 原島大輔 (2025) 「interview」『vanitas』9: 64-81.

<その他>

原島大輔 (2026) 「(新刊紹介) ユク・ホイ『ポストヨーロッパ』(原島大輔訳)」表象文化論学会ニューズレター『REPRE』56.

原島大輔 (2025) 「芸術的な感性の修養が文明の危機に理性を救う—ユク・ホイ『芸術と宇宙技芸』(伊勢康平訳) 書評」『図書新聞』3693.

原島大輔 (2025) 「夏のおとずれ」『群像』80 (7): 370-371.

■前田楓

<論文>

Maeda, K., & Hashimoto, H. (2026). Decision processes in prosocial vs. proself individuals: An eye-tracking study of social value orientation. *Letters on Evolutionary Behavioral Science*, 17, 15-19. <https://doi.org/10.5178/lebs.2026.132>

Maeda, K., Hashimoto, H. & Tanida, S. (2025). The social exchange heuristic operation during a one-shot prisoner's dilemma game. *Human and Artificial Rationalities. Advances in Cognition, Computation, and Consciousness*, 55-63. <https://doi.org/10.1007/978-3-031-84595-6>

Bourlier, M. Leroux, C., Hashimoto, H., Maeda, K., Yama, H & Baratgin, J. (2025). Discharge of responsibility as an enhancer of utilitarian choices *Human and Artificial Rationalities. Advances in Cognition, Computation, and Consciousness*, 403-410. <https://doi.org/10.1007/978-3-031-84595-6>

Hashimoto, H., Naganobu, K., Maeda, K., & Tanida, S. (2025). Reluctance to initiate cooperation: the trade-off between effectiveness and hesitation in the sequential one-shot prisoner's dilemma. *Frontiers in Behavioral Economics*, 4:1449488. <https://doi.org/10.3389/frbhe.2025.1449488>

<学会発表>

前田 楓・橋本博文 (2025). 向社会的な意思決定を導く注意配分の特性: 眼球運動測定装置を用いた探索的分析 日本人間行動進化学会第18回大会 (於: 日本女子大学目白キャンパス, 11月29日-30日)

前田 楓 (2025). 高自尊心者に対する現職の学校教員の評価 日本教育心理学会第 67 回大会  
会員企画シンポジウム「自尊心を高めることの社会的効果についての再検討」(於：浜松アクト  
シティ, 10 月 11-13 日)

前田 楓・橋本博文 (2025). リアルタイム公共財ゲームにおける協力行動と評判メカニズム 日  
本社会心理学会第 66 回大会 (於：東京大学本郷キャンパス, 9 月 20 日-21 日)

Maeda, K., & Hashimoto, H. (2025). Spontaneous cooperation and reputation in real-time  
public goods games. 4th International Conference Human and Artificial Rationalities,  
Paris, France.

前田 楓・橋本博文・谷田林士 (2025). 集団内協力行動の生起メカニズム：1 回限りの囚人の  
ジレンマゲームにおける意思決定時間および利得表への注視パタンの分析 日本心理学会第 89  
回大会 (於：東北学院大学五橋キャンパス, 9 月 5 日-7 日) \*公益社団法人日本心理学会学術大  
会特別優秀発表賞受賞

Maeda, K., Sato, K., & Hashimoto, H. (2025). Breaking the barriers: Can inclusive  
education thrive in collectivist cultures? The 16th Biennial Conference of the Asian  
Association of Social Psychology, Monash University, Malaysia

Maeda, K., & Hashimoto, H. (2025). Negative attitudes toward less educated people are  
influenced by meritocracy-based bias. IAIR-IACCP Conference 2025, Brisbane, Australia

■宮川麻理子

<学会発表>

Miyagawa Mariko, 《The Words as Virtual Dance: From a Survey of Ohno Kazuo's Collection  
of Books》, Dance Studies Association Annual Conference, George Washington University,  
Washington DC, June 26<sup>th</sup>, 2025.

<論文> (査読あり)

宮川麻理子、「自己の身体に対する認識の変容—大野慶人の舞踏の稽古をめぐって」『表象』(19)、  
2025 年 5 月、pp. 220-239。

<その他>

宮川麻理子、「バレエを「芸術」にするための理論的模索 川野恵子『身体の言語 十八世紀フラ  
ンスのバレエ・ダクシオン』書評」『表象』(19)、2025 年 5 月、pp. 242-246。

宮川麻理子、「「舞踏家カルロッタ池田をめぐる夕べ」開催報告」『立教映像身体学研究』(13)、2026年3月、pp. 89-96。

■宮本裕子

<学会発表>

須川 亜紀子、石田 美紀、宮本 裕子、米村 みゆき「アニメーションにおける女性表象、女性制作者——アニメーション業界におけるジェンダー・ギャップ」、Mechademia 2025、2025年6月7日、京都精華大学。

須川亜紀子・石田美紀・宮本裕子「アニメーション作品におけるジェンダー分析と方法論」、日本アニメーション学会第27階大会、文化学園大学、2025年8月30日。

<ギャラリートーク>

宮本 裕子「映画産業におけるアニメーションの歴史」、国立映画アーカイブ、2025年7月19日。

■横山太郎

<論文>

横山太郎、能の身体史——鬼からサイボーグへ、『思想』1222号、41-59頁、2026年2月、査読なし。

横山太郎、ワキ登場段の機能——夢幻能の物語論序説、『能楽研究』50号、1-20頁、2026年3月、査読なし。

<研究発表>

横山太郎、越境する能——戦後、A Companion to Nō and Kyōgen Theatre 刊行記念シンポジウム「能楽研究の国際発信と今後の展望」、野上記念法政大学能楽研究所「能楽の国際・学際的研究拠点」主催、於法政大学、2025年10月12日。

Taro Yokoyama, "Theatre as Dream: The Narrative Magic of Mugen-Noh," *Association for Asian Studies (AAS) 2026 Annual Conference*, Vancouver, March 14, 2026.

<講演>

Taro Yokoyama, "The Body History of Nō: From Demons to Cyborgs,"

Donald Keene Center, Columbia University, November 17, 2025.

Asian Studies Center, University of Pittsburgh, November 19, 2025.

Department of East Asian Languages and Cultural Studies, University of

California, Santa Barbara, January 20, 2026.

Yanai Initiative, University of California, Los Angeles, March 6, 2026.

<その他>

横山太郎・宮川真理子、シンポジウム「舞台におけるヴァーチャル」報告、『REPRE』54号、2025年6月。

横山太郎、NHKプレミアムドラマ『京都人の密かな愉しみ Rouge 継承』第5話（2026年2月1日放送）シナリオへの学術的助言、2025年9月。

金井雄資・横山太郎、対談『武文』をめぐって（特集「太平記と能」）、『能と狂言』号、21-30頁、2025年11月。

小秋元段・小林健二・金井雄資・横山太郎（中嶋謙昌司会）、全体討議（特集「太平記と能」）、『能と狂言』23号、31-43頁、2025年11月。

横山太郎、シンポジウム『能十番』を読む——いとうせいこう氏を迎えて（能楽学会第3回東京例会ノート）、『能と狂言』23号、2025年11月。

世阿弥（岡田利規訳・横山太郎監訳）、『現代語訳 風姿花伝・三道』、河出書房新社、2026年2月。